

氏名	山本 美紀			
学位の種類	博士（医学）			
学位記番号	第 6210 号			
学位授与年月日	平成 27 年 12 月 25 日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当者			
学位論文名	Effective Surveillance to Identify the Surgical Patients Carrying Methicillin-resistant <i>Staphylococcus Aureus</i> on Admission in a Pediatric Ward (小児病棟においてメチシリン耐性黄色ブドウ球菌を保菌した外科患者を検出する入院時細菌培養検査の検討)			
論文審査委員	主査	柴田 利彦 教授	副査	新宅 治夫 教授
	副査	掛屋 弘 教授		

論文内容の要旨

【目的】

小児病棟における外科患者のうちメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 保菌者を効果的に同定するためには、どのような患者に入院時監視培養を行うべきか検討した。

【対象】

2004 年 6 月から 2010 年 11 月までに大阪市立大学医学部附属病院および関連施設の小児病棟に 4 日以上入院している外科患者 1124 人に監視培養検査を行なった。

【方法】

入院または転院後 48 時間以内に細菌培養検査を行なった。MRSA の保菌率と、過去の入院歴の有無、心身障害の有無、年齢との関連を検討した。

【結果】

患者の保菌率は 7.8%であった。入院歴のない患者、1 年以前に入院歴のある患者、1 年以内に入院歴のある患者の保菌率は、それぞれ 2.3%、3.4%、14.5%で、1 年以内に入院歴のある患者の保菌率は他の 2 つのグループと比較して有意に高かった ($p < 0.0001$)。心身障害のある患者の保菌率 (19.2%) は、心身障害のない患者の保菌率 (6.1%) と比較して有意に高かった ($p < 0.0001$)。3 歳未満と 15 歳以上の患者の保菌率 (それぞれ 11.7%、11.9%) は他の年齢層の患者の保菌率 (3.8%) と比較して高かった ($p < 0.05$)。多変量解析で、1 年以内の入院歴、心身障害、3 歳未満と 15 歳以上の年齢層は独立した危険因子であった。

【結論】

1 年以内の入院歴、心身障害、3 歳未満と 15 歳以上の年齢層は、入院時の MRSA 保菌の危険因子である。積極的入院時細菌培養はこれらの危険因子群には行うべきである。

論文審査の結果の要旨

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) による院内感染は、以前より重要な問題となっている。MRSA 保菌者に対するプリコーションは MRSA の拡散、院内感染の予防に効果があるが、全患者の入院時監視培養を施行することは、費用対効果の点で問題である。本論文は小児病棟における外科患者のうちメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 保菌者を効果的に同定するためには、どのような患者に入院時監視培養を行うべきか検討したものである。

2004 年 6 月から 2010 年 11 月までに大阪市立大学医学部附属病院および関連施設の小児病棟に 4 日以上入院している外科患者 1124 人を対象とし、入院または転院後 48 時間以内に細菌培養検査を行ない、MRSA の保菌率と、過去の入院歴の有無、心身障害の有無、年齢との関連を検討した。

その結果、患者の保菌率は 7.8%であった。入院歴のない患者、1 年以前に入院歴のある患者、1

年以内に入院歴のある患者の保菌率は、それぞれ 2.3%、3.4%、14.5%で、1年以内に入院歴のある患者の保菌率は他の2つのグループと比較して有意に高かった ($p < 0.0001$)。心身障害のある患者の保菌率(19.2%)は、心身障害のない患者の保菌率(6.1%)と比較して有意に高かった ($p < 0.0001$)。3歳未満と15歳以上の患者の保菌率(それぞれ 11.7%、11.9%)は他の年齢層の患者の保菌率(3.8%)と比較して高かった ($p < 0.05$)。多変量解析で、1年以内の入院歴、心身障害、3歳未満と15歳以上の年齢層は独立した危険因子であった。

以上より、1年以内の入院歴、心身障害、3歳未満と15歳以上の年齢層は、入院時のMRSA保菌の危険因子であり、これらの危険因子群には積極的に入院時細菌培養を行うべきであると結論づけている。

本論文は、小児外科疾患を有する患児において、入院時にMRSAを保菌する複数の危険因子を証明するとともに、相互の関連性を検討し独立性を明らかにしたものである。今後、入院時にMRSA保菌の危険因子を持つ患児に対して監視培養を行うことがMRSA院内感染の予防に有効か否かを判定するための前方視的研究が必要ではあるが、MRSAの院内感染の予防に貢献しうる研究であり、その臨床的意義は博士(医学)の学位を授与されるに値するものであると判定された。